

# 図書館だより

2020年  
9月号  
2020年9月7日発行



無事に2学期がスタートして2週間。今年は夏休みが短かったので、そこまで大きく生活のリズムが崩れた人はいなかったと思いますが、まだまだ暑い日が続きますので体調管理に気をつけて過ごしましょう。

さて、大変残念ながら桔梗祭は中止となってしまいましたが、体育大会が今月開催されます。いつもの体育大会とは異なった進行となりますが、それぞれの競技を楽しみながら、たくさん思い出を作ってください。3年生の集団演技も楽しみにしています。

図書館では、デビュー5周年を迎えた住野よるさんの特集コーナーを開設中です。デビュー作『君の臍臓を食べたい』がベストセラーとなり、一躍有名となった住野さん。先月、著書『青くて痛くて脆い』の映画が公開され、9/16には新刊『この気持ちもいつか忘れる』が出版されるなど引き続き、注目の作家さんです。

**\*残暑の日にはさっぱりと、涼しくなったらあたたかく\***

596-ウ 『いつでもおいしい豆腐おかず』 成美堂出版

暑いと食欲が落ちてしまいがちですが、そんな時でもおいしく食べられる食材の1つがお豆腐です。まだ暑さが残る日には、トッピングを変えながら冷ややっこで食べてもおいしいし、色々なサラダやチャンプルーに合わせるレシピもよさそうです。春夏秋冬それぞれの季節に食べたい豆腐レシピが載っていますので、涼しくなったら熱々がおいしい豆腐料理も作ってみてください。豆腐のシチューや鮭と豆腐のみそグラタン、厚揚げのエビチリ風など、おいしそうなレシピがたくさんです。豆腐を使ったアイスクリームやケーキ、マフィンなど、スイーツのレシピも魅力的です。

**\*自分の好きなもの、いくつ言える？\***

913.6-ス 『麦本三歩の好きなもの』 住野 よる || 著 幻冬舎

麦本三歩は、おっちょこちょいで、天真爛漫で、食べるのが大好きな女子。彼女の賑やかな毎日には好きなものにあふれています。歩くのが好き。図書館が好き。年上が好き。生クリームが好き。ブルボンが好き。ファンサービスが好き。そんな三歩の日々を読んでいると、好きなものがたくさんあると毎日はこんなに楽しくて愛しいものになるんだなと思えてきます。と同時に、三歩のあまりのドジっぷりに肩の力が抜けてしまいます(いい意味で)。

自分の好きなものは何だろうと色々思い浮かべてみながら読んでみてください。

## 洋菓子の日って知っていますか？

9月29日は『洋菓子の日』です。三重県洋菓子協会が2002年(平成14年)に制定した記念日です。フランスではサン・ミシェル(大天使ミカエル)が菓子職人の守護聖人となっており、その祝日が9月29日であることにちなみ、この日に制定されました。この記念日には、お気に入りの洋菓子を食べたり、お菓子作りに挑戦したりと、甘くておいしい時間を過ごしてみたいはいかがでしょうか。

596.6-エ 『誰も失敗なくできるスイーツレシピ』 えもじよわ || 著 KADOKAWA

パリ在住の料理人が伝授してくれるお菓子のレシピ。レモンのメレンゲタルト、ガトーインビジブル、生ガトーショコラ、どのお菓子もおしゃれな見た目、上手く作れるか心配になりますが大丈夫。頼もしい書名どおり、初心者が失敗しやすい点や成功のポイントが丁寧に解説してありますので、コツをしっかりと読んで作ればおいしいスイーツを作ることができます。成功体験を積んでいくうちに、マカロンやシュークリーム、ミルフィーユなど難易度の高そうなものも作ってみたいくなるはず。

B913.6-チ 『西洋菓子店プティ・フル』 千草 茜 || 著 文藝春秋

「どんな食べ物も口にする人の幸せを願って作られているんです」この言葉のとおり、たくさんのお菓子がモヤモヤを抱える人々の心を優しく癒していく物語です。「何層にもなった生地が口の中でほどける」「砂糖の焦げた甘い匂いがふわっと広がる」「ほろ苦いメレンゲを噛み砕くと、冷たいムースがほろりと溶ける」と、食欲をそそる描写が満載なので、おいしい洋菓子を用意して読むのをおすすめします。

**眺めているだけで幸せな気持ちになれるこちらもおすすめ！**

☺ 596-フ 『イタリア菓子 ベーシックをきわめる』 藤田 統三 || 著 柴田書店

☺ 673-コ 『イギリスのお菓子里に会いにロンドンへ』 小松 喜美 || 著 イカロス出版



## 図書館司書の「今月はこの本を読みました」



夏休みに小野寺史宣さんの『まち』(913.6-オ 祥伝社)を読みました。2019年に『ひと』という作品で本屋大賞第2位を受賞された作家さんで気になっていたのですが、今回初めて著書を読みました。

『まち』で描かれているのは絆です。主人公の青年 瞬一は自分を育ててくれた祖父の「東京に出て、よその世界を知れ。知って、人と交われ」という言葉に押され、生まれ故郷から東京へと出てきます。人と人の繋がりが薄いイメージのある東京ですが、瞬一は引っ越し屋のアルバイトをしながら荒川沿いのアパートで暮らし、同僚や隣人と少しずつ交流を深めていきます。社交的なタイプではないけれど、親切で裏表のないまっすぐな性格の瞬一に周囲の人たちが心が開いていく様子は、読者を温かな気持ちにしてくれます。瞬一が走る荒川の河川敷、遊びにきた祖父と飲む喫茶店の珈琲、隣人親子と食べ歩きをする商店街など、瞬一の暮らす「まち」の色や音、匂いが伝わってくるのを楽しみながら読みました。 【今井】

## 図書館で出会う！～【埼玉】に出会う編～

今年はコロナ禍により遠出をする機会がいつもに比べ、だいぶ減ってしまいました。寂しい思いもありますが、この間に自分の住む町やその近隣のいいところを再発見したという人も多いのではないのでしょうか。身近な場所ほど実はよく知らないもので、調べてみると意外な歴史や名所があることに驚きます。

そんなことから今月はここ埼玉の魅力にもっと気づける機会を持ってほしいと思い、【埼玉】と出会う本を色々集めてみました。埼玉はよく「何も無いところ」と思われがちですが、そんなことはないのだということの本から知ってみてください。そして、埼玉を楽しみましょう！！

### ◆展示本リスト◆

- 186-ラ 『秩父三十四カ所めぐり』 内田 和浩 || 文 宮地 工 || 写真 JTBパブリッシング  
→巡礼入門者にも最適な秩父三十四観音。のどかな風景の中、巡礼の旅へ出てみませんか。
- 210-ア 『あなたの知らない埼玉県の歴史』 山本 博文 || 監修 洋泉社  
→県名の由来、川越が「小江戸」と呼ばれる理由など、知っておきたい郷土の歴史が満載。
- 291-オ 『埼玉カフェ日和』 オフィスクーミン || 著 メイツユニバーサルコンテンツ  
→個性豊かでおしゃれな埼玉のカフェ。メニューもおいしそうで、全店制覇したくなります。
- 291-フ 『埼玉きもの散歩』 藤井 美登利 || 著 さきたま出版会  
→織物をテーマに埼玉の「まち案内」をしてくれる1冊。埼玉の織物に詳しくなれます。
- 361-ト 『埼玉ルール』 都会生活研究プロジェクト [埼玉編] || 著 KADOKAWA  
→埼玉県民にとってのあるあるが紹介されています。これであなたの埼玉人度がわかる！？
- 596-フ 『埼玉たてもものトラベル』 埼玉たてもものトラベル委員会 || 編集・企画 メイツ出版  
→埼玉には思わず見惚れてしまう名建築もたくさん。眺めているだけで心が満たされます。
- 913.6-ア 『雪には雪のなりたい白さがある』 瀬那 和章 || 著 東京創元社  
→公園を舞台にした短編集。馴染みのある人も多くであろうあの公園も登場します。
- B913.6-ト 『作ってあげたい小江戸ごはん』 高橋 由太 || 著 KADOKAWA  
→川越の「たぬき食堂」の店主となり悪戦苦闘する大地の助太刀に現れた娘の正体とは！

この中でも、いちおしなのは…

### 913.6-ア 『雪には雪のなりたい白さがある』 瀬那 和章 || 著 東京創元社

4つの短編の中には、それぞれ異なる公園が登場します。その内の2つは飯能市のトーベ・ヤンソンあけぼの子ども森公園と、所沢市の所沢航空記念公園です。主人公たちにとって公園は大切な人との特別な思い出がつまった場所であり、ひさしぶりに足を運んだその場所で過去の自分と向き合うこととなります。「どうしてこんな未来になってしまったんだろう」そんな思いを抱えている彼らですが、公園でまた1つ新たな思い出を重ね、再スタートの第一歩を踏み出していきます。

## 新着本コーナーの気になる1冊

### 498-ク 『疲れない大百科』 工藤 孝文 || 著 ワニブックス

「最近ずっと疲れている気がする」と感じている人、その疲れの原因を探ってみませんか。「眠り方」、「食べ方」、「生活習慣」、「働き方」、「ストレス」と5つのカテゴリから疲れない体になるためのポイントが解説されています。口角を上げるとチョコレート2000個分の幸福感を得られる、右向き寝で質の良い眠りにつける、秋冬はりんごを食べると疲れない、と気軽に試せるものばかりなので実践してみてください。



### 728-リ 『ふだんの美文字』 りさ || 著 KADOKAWA



みなさんは「綺麗な字が書けるようになりたい」と思うことはありませんか。「綺麗な字は書きたいけど、どう練習したらいいのかわからない」という時におすすめしたいのがこの本です。綺麗なだけでなく温かみのある著者りささんの字を見ていると、手書きの魅力を感じ、自然と文字を書きたくなる気持ちが湧いてきます。お手本を参考にコツを掴んで、ふだん使いの美文字をマスターしましょう。

### 913.6-ツ 『サキの忘れ物』 津村 記久子 || 著 新潮社

何にも興味を持たず高校を中退した千春が、バイト先の喫茶店でお客さんが忘れていった1冊の本と出会い、世界を広げていく『サキの忘れ物』の他8編が入っています。『行列』という作品では、主人公が「あれ」を見るために12時間もかかる行列に並んでいます。「あれ」はかなりすごいものらしいのですが、正体は明かされず、ずっと思わせぶりに会話に登場してきます。一体、「あれ」とは何なのでしょう。



### 913.6-ミ 『いのちの停車場』 南 杏子 || 著 幻冬舎



著者の南杏子さんは出版社勤務を経て、大学医学部に編入。病院勤務をした後、スイスへ転居。現在は都内の終末期医療専門病院に内科医として勤務しています。本書は小説ですが、救命救急センターから在宅医療の現場に移った主人公の視線を通し、こういう医療の形もあるのだと知ることができます。在宅医療や終末期医療の現場で医師が思うこと、患者や家族が思うこと、両方の思いが胸に刺さります。